ePoster Browser.pdf
Dropboxに保存した日付• 2016/06/12 13:17

P-3-325

家庭内水耕栽培装置で生育した低カリウムレタス (LKL) の臨床効果の検討

前田 国見、武田 之彦、井下 博之、中野 貴則、志村 欣之介
順天堂大学医学部附属練馬病院 人工腎臓センター

【背景】

- 近年、K濃度を調整した生野菜や果物が流通し、K制限が必要な透析（腎不全）患者の食事療法において大きな福音になっている。
- 家庭内水耕栽培装置を使用すると手軽に自宅で新鮮で安全な生野菜を収穫することが可能である。

【目的】

- 家庭内水耕栽培装置で生育させた通常K濃度レタス（NKL）と低K濃度レタス（LKL）を透析患者に食してもらい、血清K値への影響を確認し臨床効果の有用性を検討する

室内専用植物栽培装置
itplanter
アイティプランター

LED光源を利用した室内専用の栽培装置
1年中、室内で野菜・果実栽培が可能

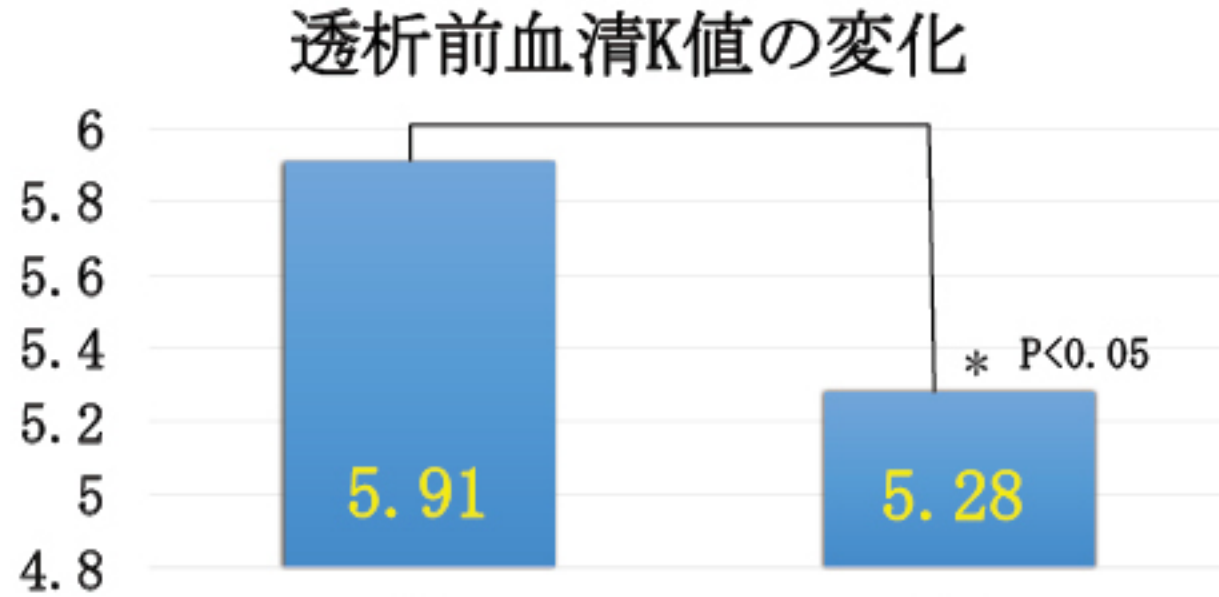
【対象と方法】

- 順天堂大学練馬病院人工腎臓センターに通院する維持透析患者6名
- 水耕栽培された通常K濃度レタス（NKL）を3週間・その後低K濃度レタス（LKL）を3週間、通常の食事に加えて摂取し透析前血清K値の推移を観察

【LKLとNKL】

	LKL	NKL
K濃度	65mg/100g（3週の平均）	248mg/100g（3週の平均）
摂取量	1食30g×4食分＝78mg	1食30g×4食分＝297mg

【結果】



NKL　　LKL

【結果のまとめ】

- LKLの摂取はNKL摂取より透析前の血清K値を低く抑えることができた
- 患者は新鮮な野菜摂取を喜んでいた
- LKLとNKLとの間の風味や食感はそれほど気にならなかった
- 手軽に栽培できるのであれば、栽培しても良いと思う患者もいた

【結論】

- K濃度を抑えた新鮮野菜は、K制限のある透析（腎不全）患者にとって、有用な食材である
- 家庭用水耕栽培で手軽に収穫できるLKLは、今後広く臨床応用が可能であると考える

Retrun